

履修方法・修了要件

ビジネス科学研究科 企業科学専攻 システムズ・マネジメントコース(博士後期課程)

【履修方法・修了要件】

科目区分	科目群	条件又は科目名等	修得単位数
専門科目	システムズ・マネジメントコース共通科目	選択必修 システムズ・マネジメント特別演習Ⅰ－Ⅰ～Ⅴ システムズ・マネジメント特別演習Ⅱ－Ⅰ～Ⅵ	6
		選択必修 システムズ・マネジメント講究Ⅰ－Ⅰ～Ⅵ システムズ・マネジメント講究Ⅱ－Ⅰ～Ⅵ	3～6
	システムズ・マネジメントコース専門科目	選択 ※ システムズ・マネジメント輪講Ⅰ－Ⅰ～Ⅲ、Ⅱ－Ⅰ～Ⅲは 最大3単位まで修了要件に算入可	7～
	企業科学専攻共通科目	選択	0～
		修了単位数	20

※ 履修上の注意

・大学院共通科目、他研究科・他専攻・他コースの科目については、教員会議の議を経て、最大4単位を上限に修了要件として認定することができる。

・一つの学期に特別演習は3単位、講究は3単位(合計6単位)まで履修することができる。各学期に開講されている未履修のものの中から、最も番号の小さいものから履修すること。

◆ 修了要件等

本コースに3年以上在学し、上記の履修方法に従って合計20単位以上を修得した上、本コースの規定に従って学位論文を完成し、その審査及び最終試験に合格した者には、「博士(経営学)」または「博士(システムズ・マネジメント)」の学位が授与される。

◆ その他

上記に記載する外、履修に際しての補足事項については別紙「履修方法等」を、早期修了を含む課程修了のプロセスについては別紙「課程修了と学位授与について」を参照。

② 履修方法等

1. 企業科学専攻の専攻共通科目及びシステムズ・マネジメントコースの開講科目を中心に、以下の選択必修科目を含む20単位以上を履修すること。
2. 選択必修科目：
 - (a) 「システムズ・マネジメント特別演習Ⅰ－Ⅰ～Ⅴ，Ⅱ－Ⅰ～Ⅵ」「システムズ・マネジメント講究Ⅰ－Ⅰ～Ⅵ，Ⅱ－Ⅰ～Ⅵ」は、博士論文執筆のための指導を内容とする科目であり、一つの学期に特別演習は3単位、講究は3単位（合計6単位）まで履修することができる。
 - (b) 「システムズ・マネジメント特別演習Ⅰ－Ⅰ～Ⅴ，Ⅱ－Ⅰ～Ⅵ」の11科目の中から6単位以上を履修すること。なお、修了必要単位には最大6単位を算入することができる。履修申告に際しては、その学期に開講されている未履修のものの中から、最も番号の小さいものから申告すること。
 - (c) 「システムズ・マネジメント講究Ⅰ－Ⅰ～Ⅵ，Ⅱ－Ⅰ～Ⅵ」の12科目（各1単位）の中から3単位以上を履修すること。修了必要単位には最大6単位を算入することができる。履修申告に際しては、その学期に開講されている未履修のものの中から、最も番号の小さいものから申告すること。
注1：「システムズ・マネジメント特別演習Ⅰ－Ⅰ～Ⅴ，Ⅱ－Ⅰ～Ⅵ」「システムズ・マネジメント講究Ⅰ－Ⅰ～Ⅵ，Ⅱ－Ⅰ～Ⅵ」とも、修了単位に算入できる上限よりも多い科目数が用意されている。これは、各科目の開講学期が決まっているため、休学等で特定学期にこれらの科目を履修しなかった場合に、他の学期に多くの履修ができるよう便宜を計っているものである。
3. 選択科目：
 - (a) 上記の選択必修科目以外に、原則として、システムズ・マネジメントコースの選択科目から7単位以上を履修すること。ただし、「システムズ・マネジメント輪講Ⅰ－Ⅰ～Ⅲ、Ⅱ－Ⅰ～Ⅲ」の単位は、最大3単位までを限度として、本コースの修了要件に算入することができる。
 - (b) 本学の大学院共通科目、他研究科・他専攻・他コースで修得した単位は、教員会議の議を経て、最大4単位までを限度として、システムズ・マネジメントコースの選択科目と同等に扱うものとする。
4. 非常勤講師が担当する科目については、当該年度に実施可能な時間数が決まった段階で、開講科目をアナウンスする。実施可能な時間数に制限があるため、毎年すべての科目を開講できるとは限らないので注意すること。
5. 博士論文作成プロセスについては、次の発表会および審査会をすべて合格する必要がある（詳細はコース規定参照のこと）。
 - (a) 研究計画審査：博士論文にふさわしい研究テーマの決定
 - (b) サーベイ論文審査：研究テーマに関連する文献の網羅と分析
 - (c) 中間論文審査：論文の骨格および主要な研究成果の審査
 - (d) 論文ドラフト審査：最終的な研究成果と論文構成の審査
 - (e) 予備審査：学位請求論文としての記述内容のチェック
 - (f) 論文審査および公聴会：提出された学位請求論文の審査
6. 本専攻システムズ・マネジメントコースに3年以上在学し、本コースの必修科目及び選択必修科目の単位をすべて含む合計20単位以上を修得した上、本コースの定める規則に従って学位論文を完成し、その審査及び最終試験に合格した者には、「博士（経営学）」または「博士（システムズ・マネジメント）」の学位が授与される。
7. 開設年度または単位数が異なる同一科目を修得した場合、修了要件として認められるのは、早い年度に修得した方の科目のみである。後に修得した科目は、「その他」の科目区分として登録され、修了要件としては認められない。
8. 上記の規定で定めること以外は国立大学法人筑波大学大学院学則等の上位規則の定めに従う。
注2：履修方法は、原則としてそれぞれの入学年度の便覧に記載されている履修方法に従うこと。
ただし、入学と同時に1年以上休学した者については、教員会議の承認を得て翌年度以降の入学者として扱うことができる。
注3：在学期間中にカリキュラムの変更が行われ、当該科目がなくなった場合には、必要に応じて科目の読み替えを行う。

③ 課程修了と学位授与について

[標準修了] 修業年限: 3年

(a) コースに標準修業年限(3年)以上在学し、(b)本コースが定める履修要件に沿って合計20単位以上を修得した上、(c)本コースの定める規則に従って博士論文を完成し、その学位審査及び最終試験に合格することにより、課程修了と学位授与が認められる形態である。なお、上記(a)~(c)に加え在学中の研究業績として、学術専門誌に採択された査読付き学術論文1編以上が必要となる。学生の大多数が選択する基本的な方法である。

[在来型早期修了] 修業年限: 1年以上3年未満

指導教員等からの推薦を受け、研究科に設置された検討委員会で「優れた研究業績を上げた者」(*1)と認定された者について、特別に修業年限を短縮し、課程修了と学位授与が認められる形態である。

該当者は、(a)コースに1年以上3年未満在学し、(b)本コースが定める履修要件に沿って合計20単位以上を修得した上、(c)本コースの定める規則に従って博士論文を完成し、その学位審査及び最終試験に合格することにより、課程修了と学位授与が認められる

(*1) 優れた研究業績を上げた者の満たすべき基準は、「当該候補者の在学中における研究成果が2編以上の学術論文として採択されており、かつ、他の1編に相当する論文又はそれに相当する著作物(特許等を含む)が一般の学術論文誌等の採択基準を満たしている」と判断できること」である。

[早期修了プログラム] 修業年限: 1年

入学前に同プログラムの履修認定審査において、一定の研究業績を有し1年以内に博士の学位取得に到達可能なレベルとの認定を受けた者について適用する形態である。

在学中は所定の達成度評価を課し、修了に際しては「在来型早期修了」と同様に「優れた研究業績を上げた者」(*2)としての認定が必要となる。

該当者は、(a)コースに1年在学し、(b)本コースが定める履修要件に沿って合計20単位以上を修得した上、(c)本コースの定める規則に従って博士論文を完成し、その学位審査及び最終試験に合格することにより、課程修了と学位授与が認められる。

なお、当該プログラム履修者が1年で課程を修了できない場合は、標準修了あるいは在来型早期修了を目指すことになる。

(*2) 優れた研究業績を上げた者の満たすべき基準は、「当該候補者の在学中における研究成果が1編以上の学術論文又は国際会議論文(査読のあるものに限る)として採択されており、かつ、他の2編に相当する学術論文が一般の学術論文誌等に採択されていること」である。

注1 在来型あるいは早期修了プログラムにより早期修了を目指す者で、修士課程を早期修了した者については、修士課程及び博士課程の在学期間を合わせて3年以上の在学が必要である。

注2 本コースにおける課程編成、研究指導、6ステージ制の博士論文作成プロセス等は、すべて標準修了を前提として基本骨格が作られているが、在来型早期修了あるいは早期修了プログラムも適用可能なように組み立てられている。

注3 いずれの場合も、勤務の都合や論文の作成状況に応じて、標準修業年限(3年)に加え、在学期間の延長(通算2年)や休学(通算3年)を組み合わせることで、最大8年間まで在籍することが可能である。